



ちょっと考えてみませんかシリーズNo.26

～合理的配慮について考える～

合理的配慮とは、**障がいのある人たちの要望を受けて、社会の中にあるバリアをとりのぞくことを言います。**

日本では、2016年4月に「障害者差別解消法」が施行されたことにより、事業者は負担が重すぎない範囲で対応することが求められるようになりました。

しかし、今でも「合理的配慮は不平等である」と考える人は残念ながら少なからずいます。

本来であれば合理的配慮について相談したい相手がそういった考えだった場合、どのように説明すればよいでしょう。

みんなが試合を観られるようにするにはどうしたらよいでしょうか？



配慮 が何もない状態…



平等 ではあるけど左の子はまだ見えない…



公平 さが担保されて全員が試合を観られる！



環境 を変えれば、ハンディキャップは生じない！

左の背の低い子が、試合を観るために木箱を2つ使うことを「ズルい」「木箱を使えば身長が伸びなくなる（成長しない）」という人はきっといないでしょう。

合理的配慮とは、**同じ目的が達せられるために必要なサポートや環境づくり**です。その内容は、障がいの特性やそれぞれの状況・場面に応じて異なります。双方で、できる方法話し合い、負担が重すぎない範囲で解決していくことが求められます。

イラスト引用元：【図表でわかる！】
発達障害×合理的配慮



あるクラスで、読み書きに障がいのある子が授業中にタブレットを使っています。これは「特別扱い」「ズルいこと」なのでしょうか？目が悪い人がメガネをかけるのと同じように、困りごと、苦手なことに対するサポートは一人一人にとって必要なことです。

配慮を受けることによってはじめてみんなと同じように学ぶためのスタート地点にたてるのです。

自分の周りに困っている人はいませんか。どのような配慮やサポートが必要でしょうか。あらためて考えてみてください。